

2011.12.17



2011年のクラシック音楽界を振り返って



プログラム

今年も残すところ僅かとなりました。今年を振り返ってみると、3月11日に起きた東日本大震災の復興支援チャリティコンサートや演奏会での追悼演奏が世界各国で行われたことが大きな出来事でした。今日はそんな中から、榎本大進の呼び掛けに集まった名手達による室内楽チャリティコンサートからシューマンの名作、ピアノ五重奏曲を。この秋来日したウィーン・フィルの追悼演奏でのモーツァルトをお聴きいただきます。一方で、今年も多くの名演奏家がこの世を去りました。そこで今日はスーク、リチートラ、ザンデルリンクという3人の演奏を聴きながら偲ぶことにしましょう。

ヨゼフ・スーク (1929.8.8~2011.7.6) は同姓同名の作曲家を祖父に持つチェコを代表する名ヴァイオリニストで、室内楽奏者としてもスーク・トリオとして活躍し、確固たる地位を築きました。

サルヴァトーレ・リチートラ (1968.8.10~2011.9.5) はパヴァロッティの後継者とも言われ、今後の活躍が期待されていたイタリアのテノール歌手でしたが、自身のバイク事故により43歳という若さで亡くなりました。

クルト・ザンデルリンク (1912.9.19~2011.9.18) はドイツ出身。旧ソヴィエト、東ドイツで活躍していたため、実力の割にその名が知られるようになったのは70年以降でしたが、気品と風格を持った忘れ難い巨匠でした。

今年の最後は第九ではなく、爽やかな新年を迎えられる様、「美しく青きドナウ」を聴いて終わることにしましょう。来年もよろしくお願い致します。

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): ヴァイオリン・ソナタ第28番ホ短調K304

ヨゼフ・スーク (ヴァイオリン) / イヴァン・クランスキー (ピアノ)
(1980.5.23 ドヴォルザークホールでのLive)

ベドルジハ・スメタナ (1824~1884): 2つの二重奏曲“ふるさと” 第2番ト短調

ヨゼフ・スーク (ヴァイオリン) / 小林 仁 (ピアノ)
(1974.10.5 新宿厚生年金会館大ホールでのLive)

フリードリヒ・フォン・フロトー (1812~1883): 歌劇“マルタ” ~夢のように

サルヴァトーレ・カルティツロ: つれない心 (カタリ・カタリ)

フランチェスコ・チレア (1866~1950): 歌劇“アルルの女” ~ありふれた話 (フェテリーコの嘆き)

サルヴァトーレ・リチートラ (テノール) / ユージン・コーン指揮東京フィルハーモニー交響楽団
(2005.7.4 サントリーホールでのLive)

ロベルト・シューマン (1810~1856): ピアノ五重奏曲変ホ長調op.44 から抜粋

マルタ・アルグリッチ (ピアノ) / ガイ・ブラウンシュタイン (ヴァイオリン) / 榎本大進 (ヴァイオリン)
ミツシャ・マイスキー (チェロ) / アミハイ・グロス (ヴィオラ)
(2011.5.30 ベルリン、フィルハーモニー室内楽ホールでのLive)

*** 休憩 ***

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): ピアノ協奏曲第23番イ長調K488 ~ 第2楽章

クリストフ・エツェンバッハ (ピアノと指揮) ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2011. 10.18 サントリーホールでのLive)

セルゲイ・ラフマニノフ (1873~1943): 交響曲第2番ホ短調 ~ 第1楽章から、第3楽章から、第4楽章

クルト・ザンデルリンク指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1989.10.10 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

ヨハン・シュトラウス2世 (1825~1899): 円舞曲“美しく青きドナウ”

クリストフ・エツェンバッハ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
(2011. 10.13 サントリーホールでのLive)